空気と水のさかい目

小俣愛理

おふろに入っているとき、おけをさかさまにしてゆぶねの中に入れた。ひっくりかえしたら、ボクッとこどもの手のグーが二つ分のでっかい空気の玉が出た。なんでボクッと出たのかなと思った。

水中メガネをつけてもぐってあおむけになった。いきをはなからはいてもだめだった。はなに水が入らないように、はなをつまんでもぐることにした。

もぐってあおむけになった。おけの中を見てみるとおけをおさえているママの手のかげが見えた。手のまわりにあかるい光があたっていた。

おけの中は、チャポンチャポンポンとなみを立てていた。どこがなみを立てているのか、空気がどうなっているのか、とおもって、手を入れた。水では、手がおもうように、うごかなくて、空気では、おもうようにうごいた。

チャポンとしていたのが、空気と水のさかい目だとわかった。

もう一回あおむけでもぐった。ゆぶねの中は、とうめいに見えた。ごみとか、かみの毛とか、いっぱい見つけられた。人とか、ものとかが、ぼや〜んとゆれていた。

20 × 20